

日常的に医療的ケアが必要な児童が地域の学校へ通いともに豊かに学ぶために

姫路市立東小学校
教諭 濑戸 和美

1 はじめに

本校には、診断名「先天性ネマリンミオパチー」の児童が在籍している。本児童は、咽頭気管分離、気管切開を行い、人工呼吸器を使用しており、定期的な吸引を必要とし、胃瘻により経管栄養を行うなど、日常的な医療的ケアが必要である。また、電動車椅子を使用し自力で自由に移動をすることができる。

本児童は兄弟が通った本校へ同じように通いたいという本人の強い願いで、本校へ入学してきた。入学から現在に至り、本校では、保護者や本児童の希望するような合理的配慮の充実にむけての基礎的環境整備が充分に整っていないのが状態である。充分な基礎的環境整備が整っていない本校で、保護者の協力をはじめ、管理職・全職員の協力と共に理解による組織的なきめ細やかな対応のもとに実践している。以下、本児童が安心して心豊かに学ぶための取組について述べたい。

2 学校の環境整備について

障害のある子どもに対する支援については、法令に基づき又は、財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育の整備をそれぞれ行う。これは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところもあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する（平成24年7月の中教審初中分科会報告書）とある。

基礎的環境整備 8 観点

- 1 ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- 2 専門性のある指導体制の確保
- 3 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- 4 教材の確保
- 5 施設・設備の整備
- 6 専門性のある教員、支援員等の人的配慮
- 7 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- 8 交流および共同学習の推進

これを踏まえて、合理的配慮の充実にむけての基礎的環境整備の観点より、本校の現状を見ていくと保護者が要望されている「観点5 施設・設備の整備」における、エレベーターの設置「観点6 専門性のある教員等の人的配慮」における、看護師の配置については、整っていないのが現状である。

学校としては、いかにして安全・安心な状態で学校生活を送り、豊かに学ぶことができるのかを保護者とともに考え、工夫して折り合い点を見出していくことにより、合意形成へつなげていっている。

(1) エレベーターの設置が整わない現状に対して

① 交流教室の設置場所の工夫

できるだけ垂直な上下階への移動の機会を最小限にし、交流学級の児童と一緒に学習したり、給食を食べたりすることのできる場所として、特別支援教室から平行移動して移動することが出来る1階に交流教室を設置した。

② 交流する時間割や教科の工夫

年度初めに、保護者や児童からの要望を受けて、交流する時間と教科を決める。それをもとに交流学級担任と時間割や教科の設定を話し合い、決定する。これも上下階への移動を最小限に抑えるための工夫とした。

③ 教職員の共通理解と協働体制づくり

交流教科によっては、3階や4階への上下階への垂直移動が伴つてくる場合がある。その為、事前に保護者や職員にも連絡、打ち合わせをし、安全で安心して上下階の移動ができ、交流学級児童と同じ学びの場の保証ができるように、移動に必要な人数の確保や移動先で必要になる移動手段としてのバギーや車椅子の準備をしている。

④ 保護者の協力

上下階への移動時には、保護者によるカテーテルマウントの着脱の協力が必要となる為、事前の連絡と準備が必要になる。

また、保護者から全教職員に、人口呼吸器や吸引器の取り扱いについての説明（研修）をする機会を作り共通理解図る。

(2) 看護師の配置が整わない現状に対して

① 日常的に行われる医療的ケア

カテーテルマウントの着脱（上下階への移動時、休息時のベッドへの移動や車椅子への乗り降り時等）、痰の吸引、胃瘻による経管栄養を行う、呼吸器の回路の交換等。本児童が安心して学校生活を送るには、日常的に行われている医療的ケアを保護者（母親）に協力してもらわなければ成り立たないのが現状である。

② 緊急時の対応への研修やマニュアルづくり

本児童の体調の変化に伴う緊急時の対応に、どの職員も母親の補助を確実に行えるためには、日頃から児童が使用している医療的な機器や用具名や使用方法等に係る校内の研修やマニュアルづくりが必要となる。

③ 保護者の負担軽減のための工夫

保護者は、本児童の変化に24時間細心の注意を払い、気を抜くことが出来ない生活を送っている。それに加え、本児童とともに小学校に登校してからも、日常的に行われる医療的ケアを行うために、本児童が下校するまでの間、常に学校に待機してもらっている。その負担を少しでも軽減するために、心身を休めることが出来る待機場所として、特別支援学級内と多目的教室に休憩スペースを確保し、ソファーやベッド、布団なども用意した。2つの待機場所は、児童の体調等に応じて保護者が場所を選択することができるようになり、児童の母親からの自立へともつなげていけるよう配慮した。

3 教師の役割として

(1) 新たな信頼関係を築くために

2年生に進級する段階で、担任が現担任へと交代した。担任が代わったことへの大きな不安が児童、保護者ともにみられた。本児童は、担任交代、クラス替え、体調の変化が重なったため、2年生の4月から1学期間は、入退院を繰り返すことになり、児童の気持ちも学校から遠のきかけていた。児童とも保護者ともまだまだ信頼関係を築くことはできておらず、「子どもを理解し、子どもに寄り添う。」「保護者とともに考え、保護者に寄り添う。」このことをもう一度肝に銘じて取り組んだ。

登校できない児童にとにかく様々な方法（電話連絡、お手紙でのポストインなど）で連絡をとった。しかし、連絡することが、保護者の負担にならないようにすることにも気を付けた。また、直接会える場を少しでも作れるようにと、定期的な病院の受診日に同行したり、連携の専門機関への訪問日に参加したりと、様々な場面での児童の活動の様子や内容を保護者に寄り添いながら、直接話が聞けるように心がけた。

きめ細やかな取組の積み重ねによって、徐々に信頼関係を築くことができ、2年生の2学期からは、心身ともに安定し登校することができるようになった。

(2) 保護者との連携

保護者との信頼関係が築けたことにより、家庭での日常の細やかな様子や変化や対応などを参考に多くのことについて話し合う機会をもつことができた。そして、本児童の学校での過ごし方についても、本児童の健康と心の状態を一番に考え、常に保護者と一緒に考えていった。

① 活動時間の組み立て

授業を行っていく際に、児童の体調を一番に考え活動時間を組み立てていくことが、なによりも大切になってくる。保護者との連携により、登校してから、交流学級で学習したり、給食、休憩、支援学級での学習をしたりする時間を組み立てていった。また、行事の前後や季節の変化、体調の変化等にも合わせて、その都度柔軟に考えていく。体調を一番に考え柔軟に対応していくことにより、交流する時間の確保や個別に対応する授業をする時間の確保もしていった。休憩時間もしっかりと確保することにより、体調を整えながら集中して学習を続けていく時間が増えてきた。

② 学校行事への参加方法

学校行事の運動会、音楽会、駆け足記録会等、学年行事の校外学習等では、年度始めに行事の予定を保護者に知らせ、学校が考える参加方法を提示し保護者と一緒に考えながら、本番に向けて、プログラム編成や工程を考えるなど、よりよい参加方法を探っていっている。また、余裕をもって練習に取り組めるように準備し、本番当日には、綿密なタイムスケジュールを打ち合わせたり、保護者の待機場所等の確認をしたりするなど、常に保護者と連携を取りながら臨んでいる。

(3) 交流学級担任との連携

交流学級担任との密な打ち合わせを事前にすることにより、交流学級での授業の参加の仕方やグループ活動や生活班のグルーピング等、授業に参加しやすい形を作ることができた。本児童は、交流学級で行う授業を前もって学習できることで、

見通しをもって授業に参加し、授業後も本児童のペースに合わせてじっくりと支援学級でも続けて学習することができた。その積み重ねにより、本児童自身が交流学級の一員として授業に積極的に参加する姿が見られるようになってきた。

(4) 授業の中で

特別支援学級での個別の学習の時間には、一日の流れや一時間の学習の流れの見通しをもたせ本人と一緒に確認することにより、安心して取り組めるようにした。その時々の体調等の状態に合わせ、いくつかの課題を組み合わせていき、「できる」「できた」の成功体験の積み重ねを自信に変え、日常の生活の中でも使える力となるように取り組んでいった。学習する場所も机やベッドに座って行うなどと対応させながら行っていった。

また、自分の体の状態を知り、姿勢の保持や運動の動作の際の体の動きを意識したり、体調の良し悪しによって活動を調節したりすることも少しづつ意識できるよう取り組んでいた。そして、自分の意思や感情を伝えたり、身近な大人や友達とやりとりしたりするためのコミュニケーション手段として、身振りやしぐさだけでなく正確な文字や言葉での伝達ができることも目標とし、毎日の連絡帳にその日の出来事を教師と一緒に書いていくことにも段階的に取り組んでいた。



一日の生活の流れを作る
(当番活動)



毎日の当番活動達成時のシールを使って、10の合成と分解のやりとり
「後いくつで10?」「10から5をひいたらいくつ?」



今日は、何月何日？何曜日？
天気は？今日の予定は？

4 成果と課題

環境整備が万全な形に整わない中、常に保護者と色々な場面で話し合いをもち、本児童の体調や気持ちを一番に考えながら取り組んできた。活動する時間を柔軟に組み立てながら、学習への取り組みや行事への参加を通しての本児童の成長は目を見張るものがある。豊かな表情に加え、身振りだけでなくホワイトボードに文字を書くことによるコミュニケーション力も身に付けるなど、どんどんできることを増やしていく自信につなげている。また、学校生活の中で、たくさんの経験を積み、交流学級の児童とともに学習することを通して、交流学級の一員として積極的に授業に参加できるようになってきた。そして、車椅子を押す体験や押してもらう体験を通して「ありがとう」「どういたしまして」の気持ちを交流させるなどお互いに豊かに学び、さらなる人間関係の広がりも見られる。今後も引き続き「施設・設備の整備」「専門性のある教員等の人的配慮」についての要望を出しながら、保護者とも密に連携を取り、全職員で関わり、支えていくことを通して本児童の学びや人間関係がより豊かになるように一緒に取り組んでいきたい。